

平成28年8月16日

船橋市長 松 戸 徹 様

船 橋 市 リ ハ ビ リ セ ン タ ー
運営委員会 委員長 鳥海 正明

船橋市リハビリセンターの平成27年度事業報告並びに中期目標及び中期行動計画達成状況の評価について（報告）

船橋市リハビリセンター運営委員会設置要綱第2条第3号の規定に基づき、本委員会において、平成27年度事業報告、中期目標及び行動計画達成状況並びに毎事業年度における管理の実績について評価を行った。

平成27年度事業報告については、指定管理者が患者及びその家族に対して質の高い医療及び介護サービスを提供していることが確認された。このことから、本委員会としてはその運営全般について高く評価をするものである。

なお、中期目標及び中期行動計画達成状況の評価については別紙のとおりである。

船橋市リハビリセンター 中期目標及び行動計画達成状況評価

1. 採点基準及び評価について

中期目標及び行動計画達成状況の評価（案）の作成にあたっては、事務局において各目標の仮評価を行なうものとし、それぞれに4段階の採点を行なった。採点の基準及び評価は以下の通りである。

【評価】

- S・・・目標が高いレベルで達成されている
- A・・・目標が達成されている
- B・・・目標が概ね達成されている
- C・・・目標が達成されていない

【各目標の評価基準】

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

<リハビリセンターの利用に関する項目>

各年度の目標値から算出した「満足・やや満足」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

<リハビリの効果に対する期待度の項目>

各年度の目標値から算出した「良くなる・現状が維持できる」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

Ⅱ 通所リハビリ利用者について

目標 2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

目標 3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合 100 分の 50 以上

目標 4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数 3 年以上の者の占める割合 100 分の 30 以上

各年度の目標値から算出した達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

目標 5 利用者アンケートによる患者満足度

＜リハビリセンターの利用に関する項目＞

各年度の目標値から算出した「満足・やや満足」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

＜リハビリの効果に対する期待度の項目＞

各年度の目標値から算出した「良くなる・現状が維持できる」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標 6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

目標 7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数 3 年以上の者の占める割合 100 分の 30 以上

各年度の目標値から算出した達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

目標 8 利用者アンケートによる患者満足度

＜リハビリセンターの利用に関する項目＞

各年度の目標値から算出した「満足・やや満足」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

＜リハビリの効果に対する期待度の項目＞

各年度の目標値から算出した「良くなる・現状が維持できる」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。
- C … 80%未満となっている。

Ⅳ 訪問看護利用者について

目標 9 利用者アンケートによる患者満足度

Ⅴ リハビリ事業利用者について

目標 10 利用者アンケートによる患者満足度

各年度の目標値から算出した「満足・やや満足」の件数に対し、達成率が

- S … 105%以上となっている。
- A … 100%以上、105%未満となっている。
- B … 80%以上、100%未満となっている。

C … 80%未満となっている。

目標 1 1 診療所部門 経常収支比率

目標 1 2 訪問看護部門 経常収支比率

各年度の目標値から算出した執行率が

S … 105%以上となっている。

A … 100%以上、105%未満となっている。

B … 80%以上、100%未満となっている。

C … 80%未満となっている。

目標 1 3 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行なう

S … 各年度の行動計画以上の事業を実施した。

A … 各年度の行動計画どおりの事業を実施した。

B … 各年度の行動計画にある事業は実施したが回数が少なかった。

C … 各年度の行動計画にある事業が実施できなかった。

2. 平成27年度目標・実績・評価について

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

評価： S

外来患者の満足度調査においては、全ての調査項目が目標値を超える結果となり、高いレベルで目標が達成されていた。

今後も患者の高い満足度が維持できるように、引き続き同様の取り組みを実施していただきたい。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

評価： S

通所リハビリを終了した者46人中、目標を達成した者は9人、達成率は19%と目標値（5%以上）を高く上回る結果となった。

今後も、利用者にとって質の高い通所リハビリテーションの提供を行なっていただきたい。

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士が占める割合100分の50以上

評価： S

介護福祉士の占める割合については、全体の介護職員2人のうち介護福祉士は2人となり、100%の実績値となった。

指定管理者は、特に中重度の要介護者や認知症高齢者に対応するケア体制を確保するため、リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を行ない、無駄のない人員配置に努め、介護職員の安定的な確保を図っていた。

また、職員に対し「在宅研修」を実施し、介護サービスに従事する職員の更なる資質の向上を目指す取り組みを推進していた。

平成28年度も引き続き、同様の取り組みを実施していただきたい。

**目標 4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数 3 年以上の者の
占める割合 100 分の 30 以上**

評価： S

勤続年数 3 年以上の者の占める割合は、全体の職員数 15 人うち 14 人、93.3%となり、目標値の 30%を大きく上回る結果となった。

センター以外の拠点からの人事異動を可能にし、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めるなど、指定管理者の目標達成に向けた努力が影響している。

平成 28 年度以降も、引き続き同様の取り組みを実施していただきたい。

目標 5 利用者アンケートによる患者満足度

評価： S

リハビリテーションの質や技術、職員の対応については、目標値を超える結果が得られた。

次年度においても、引き続き同様の取り組みを続けていただき、スケジュールの満足度では更に目標値を目指した取り組みを推進してほしい。

Ⅲ訪問リハビリ利用者について

**目標 6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した
目標の達成率**

評価： S

訪問リハビリを終了した者 38 人中、目標を達成した者は 15 人、達成率は 39%と目標値（5%以上）を高く上回る結果となった。

センター職員の居宅訪問時におけるきめ細やかな患者への対応、患者の健康状態の管理等、また、社会参加が維持されなかった場合も患者や家族に対し適切な助言を行なう等、目標達成のみにとらわれず、リハビリの効果の向上に努められていた。

平成 28 年度においても、引き続き質の高い訪問リハビリテーションの提供を行なっていただきたい。

目標 7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

評価： S

利用者に直接提供する各職種のうち勤続年数3年以上の者の割合は、理学療法士では6人のうち5人、作業療法士では5人のうち5人、言語聴覚士では2人のうち2人となっており、計13人のうち12人、92.3%となり、目標値を大きく超える結果となった。

目標3と同様の取り組みが行なわれた成果といえる。

平成28年度以降も、引き続き同様の取り組みを続けていただきたい。

目標 8 利用者アンケートによる患者満足度

評価： S

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合がいずれも100%の結果となり高いレベルで目標を達成し、利用者にとって効果的な質の高い訪問リハビリテーションが実施されていた。

引き続き、平成28年度も同様の取り組みを続け、スケジュールについては、更に満足度を高める取り組みを行っていただきたい。

IV訪問看護利用者について

目標 9 利用者アンケートによる患者満足度

評価： S

調査項目「職員の対応」「訪問看護の質・技術」について、「満足」と「やや満足」を足した割合100%、また「満足」のみの割合についても100%となり、非常に高い割合をもって目標を達成することができた。

現在の高いレベルを維持し、引き続き平成28年度も同様の取り組みを行なっていただき、スケジュールについては、更に満足度を高める取り組みを行っていただきたい。

V リハビリ事業利用者について

目標 10 利用者アンケートによる患者満足度

評価： A

指定管理者制度へ移行してから、パワーリハビリフォローアップ及びプールリハビリ利用者が増加し、定員枠を超えて事業を実施せざるをえない日が生じていた。そのため、施設の安全管理上危険が生じかねないことから、市と指定管理者と協議を行ない、平成28年1月より1人の利用回数を週1回までとする制限を始めたところ、もっと多く施設を利用したいと考える利用者の不満がアンケート調査の結果に繋がった。

このような厳しい状況の中、職員の対応については「満足」と「やや満足」を足した割合が95.6%、「満足」のみの割合については86.2%と高い数値となっており、利用者の満足度を下げないように指定管理者の接遇面における努力が伺えた。

今後も、職員の対応については、現在の高い質を保っていただき、また、事業の運用については、引き続き、市と協議を行ない、利用者の満足度が高められる方策の検討に協力をいただきたい。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標 11 診療所部門 経常収支比率

評価： S

目標達成に向けて指定管理者が行なった取り組みとして、前年度と同様にリハビリテーションサービスを適正な供給量に保ち、患者・利用者の増加時のスムーズな人員配置を心掛けたことで費用の削減を図り、また、医療・介護報酬改定の影響を受け一部報酬が引き下げになる中、増患対策を行なうなど、引き続き目標達成に向けた努力を行なっていた。

次年度は更に経営努力が必要となる目標値となるため、引き続き安定的な経営を目指して尽力いただきたい。

目標 12 訪問看護部門 経常収支比率

評価： S

目標達成に向けて指定管理者が行なった取り組みとして、介護報酬改定に際して介護支援専門員への説明会の開催や、リハビリテーションサービスの供給量の適正に努めたことなどの活動や、増患対策を行ない訪問看護ステーションの利用者を大きく増やすことができた。ま

た、計画的に人員配置を行なうなど出来る限り無駄の無い配置に努め、目標達成に向けた大変な努力が伺える。

次年度も引き続き同様の取り組みを実施していただき、安定的な経営を維持していただきたい。

3. その他管理に関する重要事項

目標 1 3 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行なう

評価： S

目標に掲げる事業を全て実施していた。そのうち、「リハビリ関係者向け研修会」については、事業計画を年3回としていたが、実績では年15回開催していたことから、リハビリの普及に努めていることが伺える。

今後も多くの方にリハビリテーションを普及啓発できる事業を実施し、地域リハビリテーションの推進に努めていただきたい。